

NOMURA

NOMURA

デット・インベスター・プレゼンテーション

2011年3月期第3四半期 決算説明資料

野村ホールディングス株式会社

本資料は、米国会計基準による2011年3月期第3四半期の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。本資料は、2011年2月2日現在のデータに基づき作成されております。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

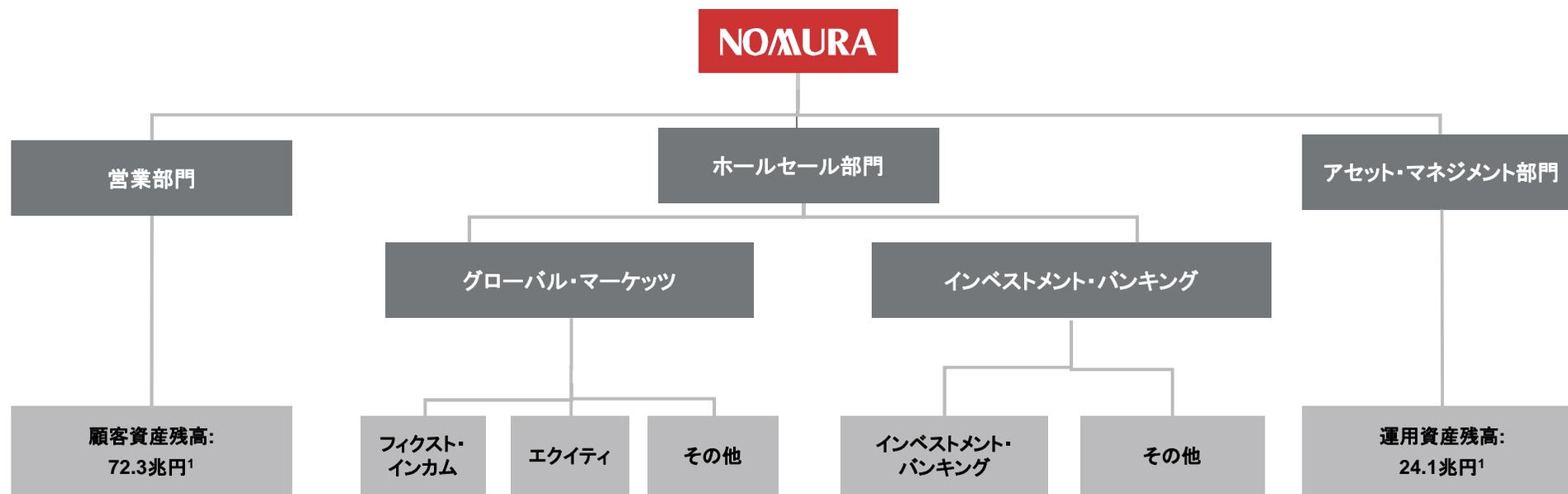
本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

- 1 野村グループ概要
- 2 2011年3月期決算の概要
- 3 資金調達
- 4 資本基盤およびリスク・マネジメント
- 5 Appendix

野村グループ概要

- 国内資本市場における主導的な役割の担い手
 - リテールおよびホールセールマーケットの主要分野においてトップシェアを維持
- アジア市場での強味、日本における営業部門、アセット・マネジメント部門、ホールセール部門での強固な顧客基盤をベースに、海外のホールセール事業基盤を迅速に構築
- 強固かつ健全なバランスシートと業界トップクラスの資本基盤、総資産の17%に相当する流動性プール
- 規律をもった海外事業基盤への投資は、とりわけ米国とAEJにおいて徐々に結実
 - 事業再構築を開始して以降、顧客基盤は毎四半期着実に成長
- 各地域において規律を保ちつつトップレベルの人材を確保



1. 2010年12月末現在

- 1 野村グループ概要
- 2 2011年3月期決算の概要(第3四半期)
- 3 資金調達
- 4 資本基盤およびリスク・マネジメント
- 5 Appendix

2011年3月期決算の概要(第3四半期)

■ 安定した業績

- 困難な経済環境下で7四半期連続で純利益を計上
- 第3四半期収益は前四半期比7%増、前年同期比で8%増、3事業部門とも前四半期比増収増益
- 税前利益は前四半期比で29%増、前年同期比55%増
- 純利益では前四半期の13倍となる134億円、前年同期比31%増

■ 多様な調達基盤

- 第3四半期で約2,000億円のシニア長期負債および約1,530億円の劣後債による調達を実施、2011年1月には米国で12億5千万ドルのベンチマーク債を起債するなど調達源を分散化
- 安定的な国内資本市場や銀行借入れへのアクセスは引続き当社の競争上の優位性を担保

■ 積極的なリスク管理

- 顧客ニーズに応じ適切に経営資源を配分しつつ、引続き慎重なリスク管理により、第3四半期も欧州のソブリン問題の再燃や長期金利の上昇による負の影響を回避
- レベル3資産はティア1資本対比43%
- 期末流動性プールは690億米ドルと総資産のおよそ17%に相当、向う1年分のリファイナンス所要額を前倒しで確保しつつ、深刻なストレス状況下での潜在的な資金流出に対しても対応可能な資金を確保

■ 堅固な資本基盤と慎重なレバレッジ管理

- ティア1コモン比率は17.1%、業界でも引続きトップクラスの水準
- グロスレバレッジは16.2倍と保守的に管理

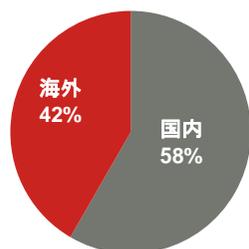
2011年3月期決算の概要(第3四半期、第1-3四半期累計)

	2011年3月期第3四半期			2011年3月期第1-3四半期	
	2011年3月期 第3四半期	前四半期比 (%)	前年 同期比 (%)	2011年3月期 第1-3四半期累計	前年 同期比 (%)
収益合計 (金融費用控除後)	2,959億円	7%	8%	8,313億円	(5%)
金融費用以外の費用	2,681億円	6%	4%	7,755億円	(3%)
税前利益	278億円	29%	55%	558億円	(27%)
純利益 ¹	134億円	13x	31%	168億円	(66%)

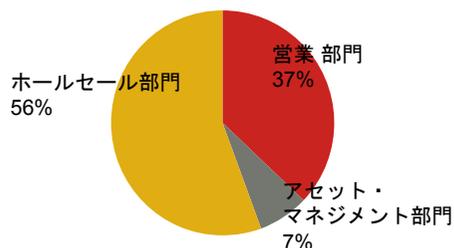
コメント

- 収益は2,959億円で、前四半期比7%増収、3部門すべて増収増益
- ビジネス・セグメントの税前利益は408億円で前四半期比14%増加
- 営業部門の収益は975億円で前四半期比11%増加。株式・投資信託の募集買付が好調
- アセット・マネジメント部門の収益は214億円と前四半期比11%増加。運用資産の増加に加えて、海外運用子会社でのパフォーマンス連動報酬により、収益が増加
- ホールセール部門の収益は1,722億円と前四半期比5%増加。インベストメント・バンキングとエクイティは収益を伸ばし、フィクスト・インカムは厳しいマーケット環境の中、微減に留まる。引き続きグローバル・ビジネスを拡げ、米国のフィクスト・インカムは収益にも貢献
- 純利益は実効税率がより正常化したこともあり前四半期比13倍の134億円

第1-3四半期
地域別収益



第1-3四半期
3ビジネスセグメント別収益



(1) 野村ホールディングス株主に帰属する純利益

営業部門

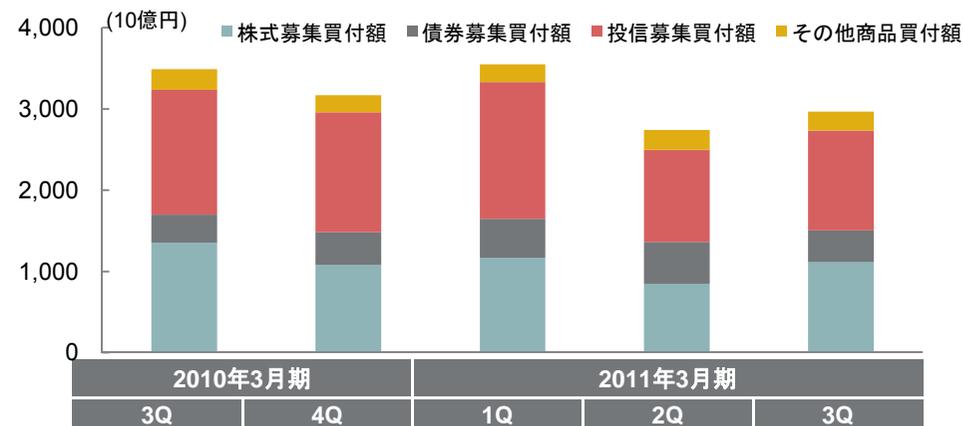
- 株式・投資信託という主力商品をバランスよく買付けし、業績は堅調
- 2.1兆円の顧客資産残高の純増、およびマーケットの回復により顧客資産残高も72.3兆円に増加

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

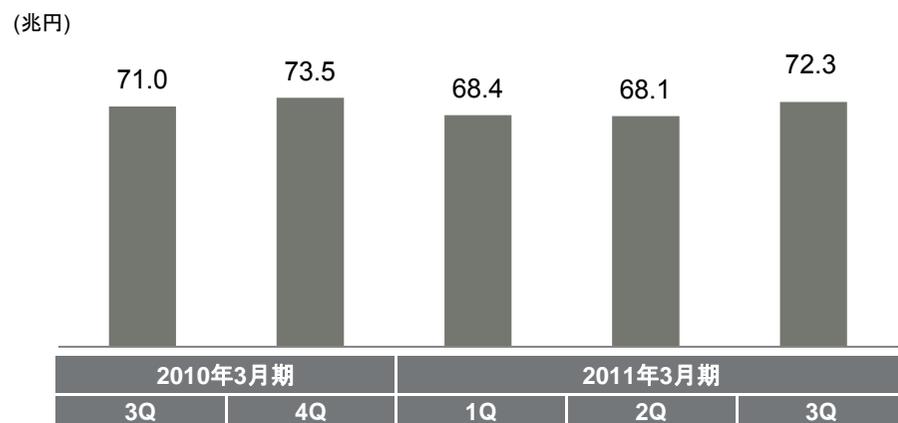
(10億円)

	2010年3月期		2011年3月期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
収益合計(金融費用控除後)	104.3	95.5	111.0	87.8	97.5
金融費用以外の費用	69.1	71.5	73.2	65.0	74.5
税前利益	35.2	24.0	37.7	22.8	23.0

総募集買付額



顧客資産残高



コメント

- 収益975億円(前四半期比11%増、前年同期比7%減)
- 税前利益:230億円(前四半期比1%増、前年同期比35%減)
- 募集買付
 - ✓ 顧客資産残高 72.3兆円
 - ✓ 残あり顧客口座数 493万口座
 - ✓ 顧客資産純増 2.1兆円
- 主な投信販売
 - 野村グローバル・ハイ・イールド債券投信 3,527億円
 - 野村米国ハイ・イールド債券投信 2,039億円
 - 野村ドイチェ・高配当インフラ関連株投信 1,990億円

アセット・マネジメント部門

- 引続き国内での圧倒的な地位を維持
- 投資信託への資金流入により2010年12月末の運用資産残高は0.8兆円増加

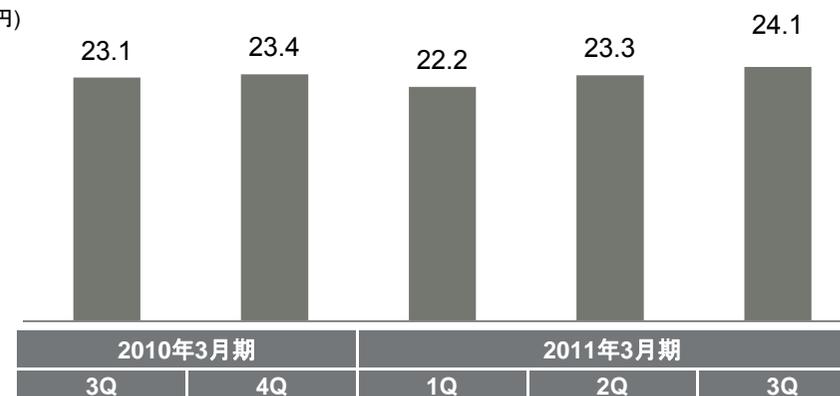
収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)

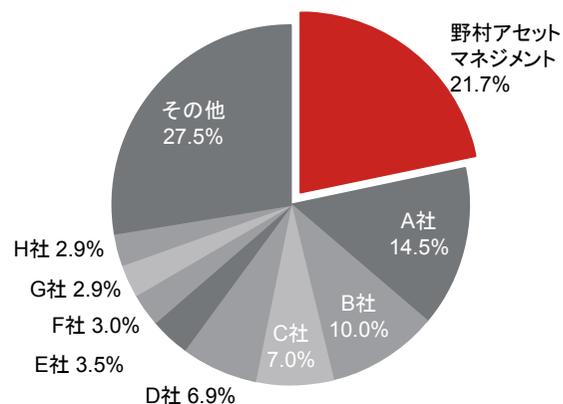
	2010年3月期		2011年3月期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
収益合計(金融費用控除後)	17.2	18.0	18.1	19.3	21.4
金融費用以外の費用	13.2	13.1	13.2	14.1	14.4
税前利益	4.1	4.9	4.9	5.2	7.0

運用資産残高

(兆円)



公募投信シェア(2010年12月末)^{1,2}



コメント

- 収益214億円(前四半期比11%増、前年同期比24%増)
- 税前利益:70億円(前四半期比34%増、前年同期比71%増)
- 12月末の運用資産残高は9月末比0.8兆円増の24.1兆円
- 投資顧問ビジネスでは、海外顧客からの日本及びアジア関連プロダクトの受託が好調

1. 野村アセットマネジメント単体
2. 投資信託協会資料から野村アセットマネジメント作成

ホールセール部門

- 好調なインベストメント・バンキングやエクイティ、堅実なフィクスト・インカムにより収益は前四半期比5%増と強固な実績
- 世界的に市場が低迷するなか2四半期連続で収益改善、顧客基盤拡大の成果が顕在化

収益合計(金融費用控除後)、税前提利益

(10億円)	2010年3月期		2011年3月期		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
収益合計(金融費用控除後)	210.1	168.4	108.6	163.4	172.2
金融費用以外の費用	161.6	133.2	149.8	155.8	161.4
税前提利益/損失	48.5	35.2	-41.1	7.6	10.8

グローバル・マーケット

	2010年3月期	4Q	2011年3月期	1Q	2Q	3Q
フィクスト・インカム	70.5	55.6	41.0	77.8	71.7	
エクイティ	90.1	76.5	46.3	55.2	61.5	
その他	3.2	0.9	9.2	11.4	7.8	
収益合計(金融費用控除後)	163.9	133.0	96.4	144.4	141.0	
金融費用以外の費用	130.8	103.0	122.8	123.2	127.8	
税前提利益/損失	33.1	30.0	-26.3	21.1	13.2	

インベストメント・バンキング

	2010年3月期	4Q	2011年3月期	1Q	2Q	3Q
インベストメント・バンキング (グロス) ¹	81.7	43.3	29.0	39.7	61.9	
その他部門等への アロケーション	37.2	15.4	13.2	18.7	25.6	
インベストメント・バンキング (ネット)	44.5	27.8	15.8	21.1	36.2	
その他	1.8	7.6	-3.6	-2.0	-5.1	
収益合計(金融費用控除後)	46.2	35.5	12.2	19.0	31.1	
金融費用以外の費用	30.8	30.2	27.0	32.5	33.5	
税前提利益/損失	15.4	5.2	-14.8	-13.5	-2.4	

1. 「その他」を除くインベストメント・バンキングのグロス収益

グローバル・マーケット 顧客フローからの収入

2010年3月期第1四半期を100として指数化



リーグテーブル*

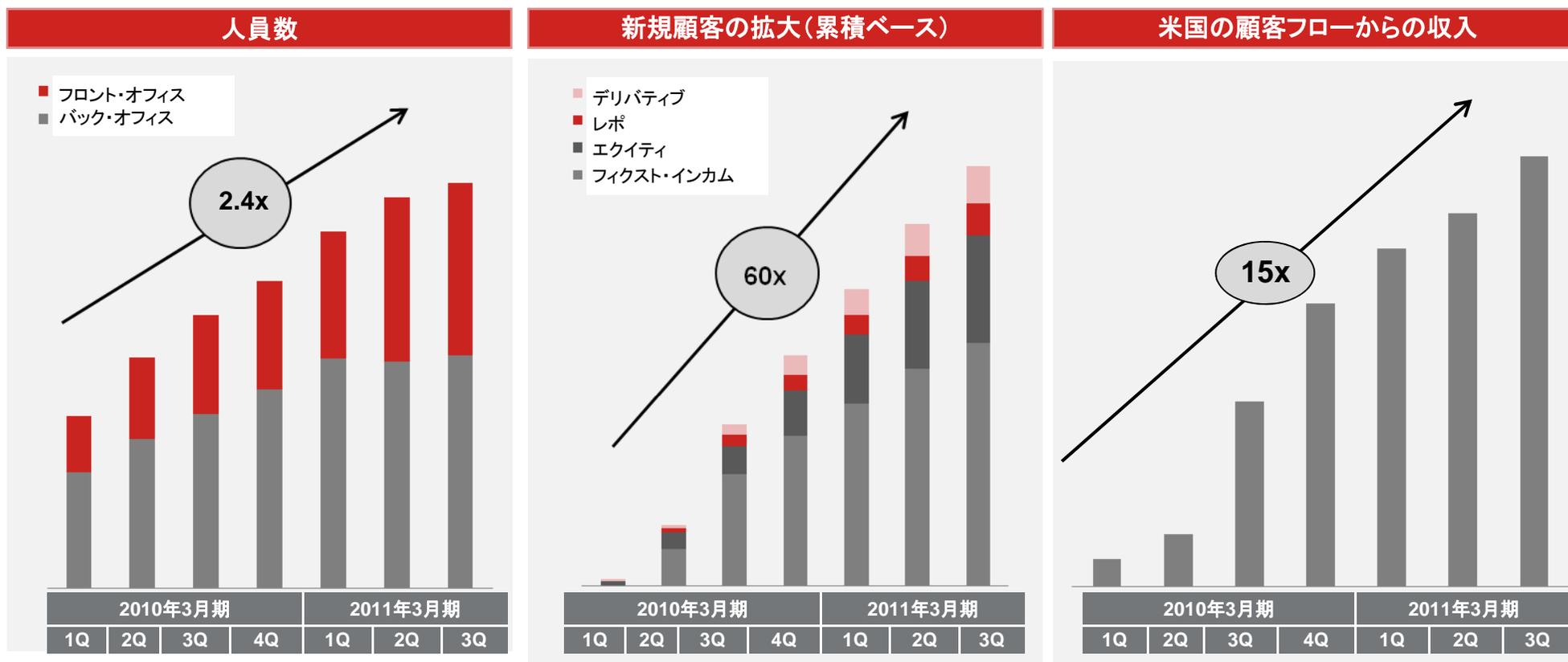
	2010	2009
Global ECM	#9	#9
Global M&A	#12	#16

* 出所: トムソン・ロイター

コメント

- 収益: 1,722億円(前四半期比5%増、前年同期比18%減)
- 税前提利益: 108億円(前四半期比41%増、前年同期比78%減)
- グローバル・マーケットでは大型プライマリー案件、デリバティブ案件中心にエクイティで増収。フィクスト・インカムは顧客アクティビティの低下や不安定なトレーディング環境の中でも堅調に推移
- インベストメント・バンキングでは、前四半期比増収。各地域の大型ECM案件や、M&A/レバレッジド・ファイナンス案件、ソリューション案件が収益を牽引

米国：トップクラスの人材を採用することにより、顧客基盤が拡大



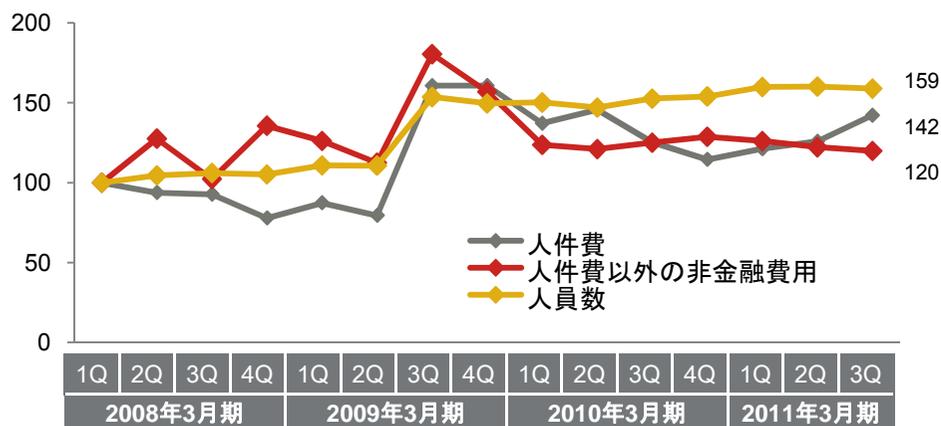
Key Points

- トップティアからの経験豊かな人材を継続的に採用し顧客基盤を拡大
- コストにフォーカスし、投資の重点分野を再検討、長期的な収益の最大化を図る
- フィクスト・インカム、エクイティともにセールス、トレーディング、リサーチといった幅広いサービスを展開

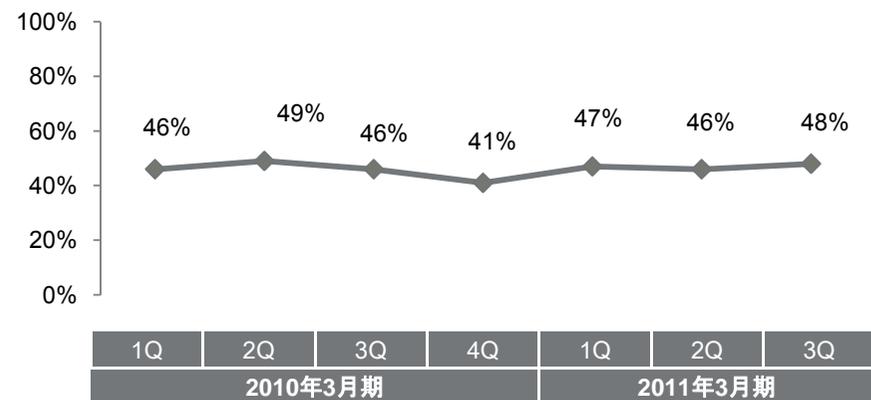
費用水準

- 金融費用以外の費用は、コスト管理と業績連動型の報酬体系の浸透に伴い、人員数の増加にもかかわらず2009年3月期にピークを打ち、以降漸減し、現在ほぼ横ばい
- 人件費は収入増にあわせて増加、効率性改善、経費削減のためのグローバルなIT投資の効果も出始める

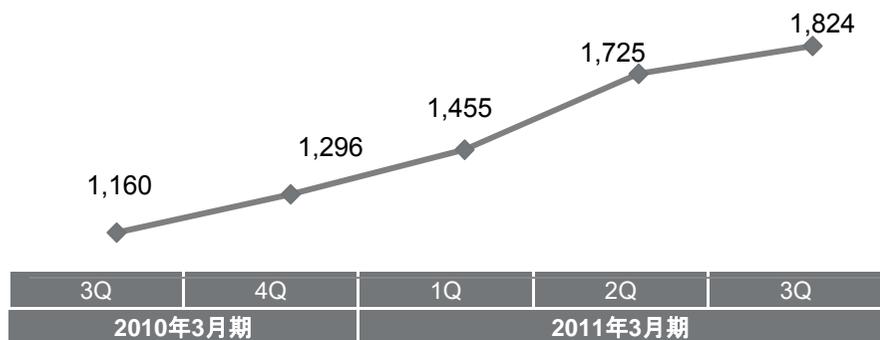
人員数・費用動向(指数化)



人件費レシオ



米国の人員数¹



コメント

- 金融費用以外の費用は収益増や米州の人員増をうけて前四半期比6%、前年同期比で4%増。米州での体制は必要とされる規模に徐々に到達、ホールセール部門収益の成長にみてとれるように直近採用した人材も本格稼働開始
- グローバルな事業基盤投資の回収につとめ、メリハリのある経費管理を継続しつつ、将来の成長を確保

1. Instinet、Nomura Asset Management U.S.A., Inc.を除く

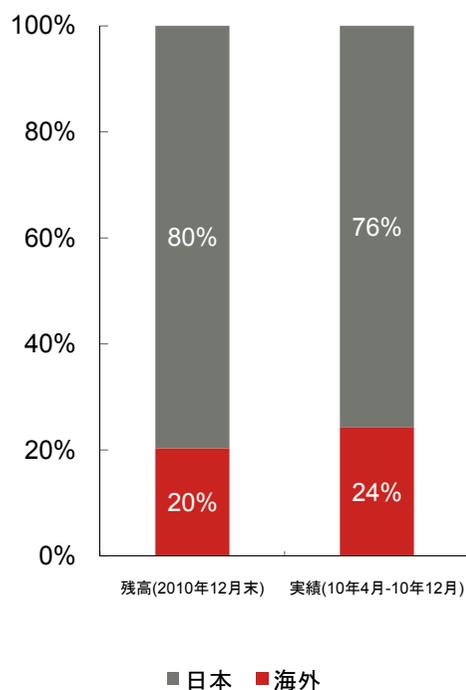
- 1 野村グループ概要
- 2 2011年3月期決算の概要
- 3 資金調達**
- 4 資本基盤およびリスク・マネジメント
- 5 Appendix

資金調達(1/2)

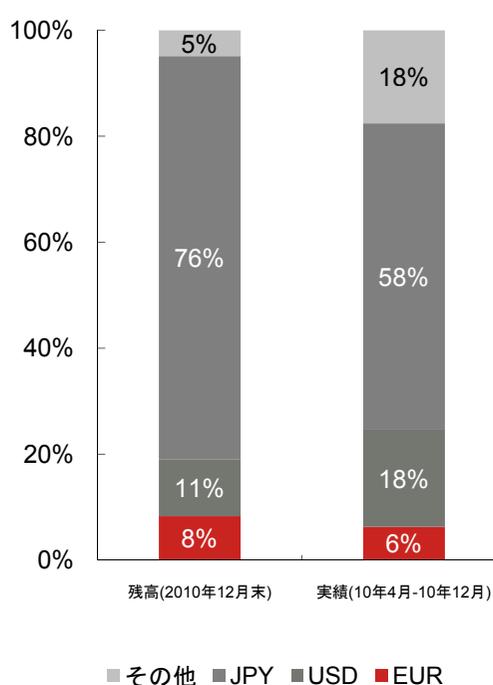
- 2011年3月期上半期は安定したアジア市場を活用し、約0.9兆円の長期資金を調達
- 第3四半期は期限付き劣後債約1,530億円を含む約3,500億円を調達するなど、向う1年間の長期負債償還資金を手当て済み
- 国内の調達ソースは適切に分散、一方で有利な金利環境を活かすべく、引続き負債の長期化を推進。償還まで1年超の長期負債の平均残存年限はおおよそ6年

長期調達

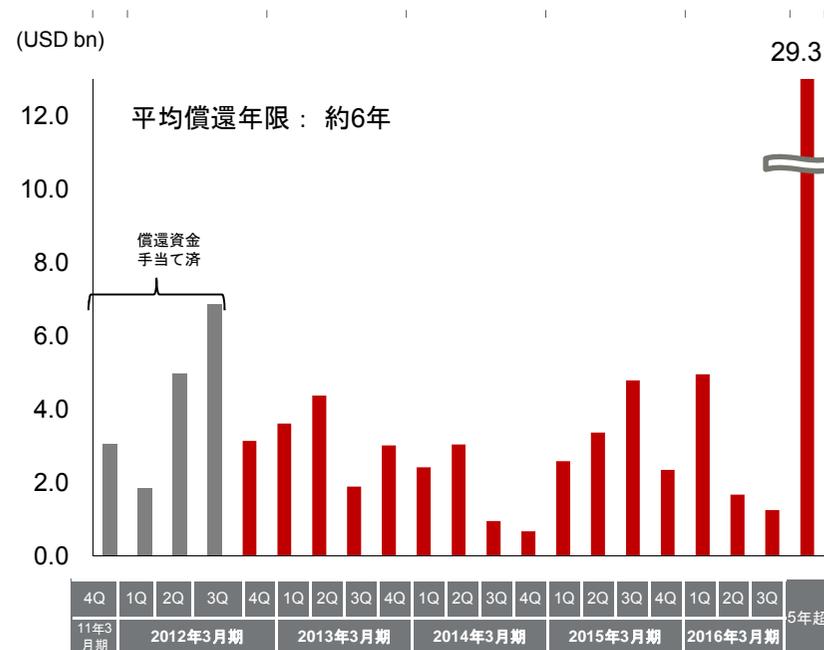
地域構成



通貨構成



スムーズな長期負債償還期限分布1

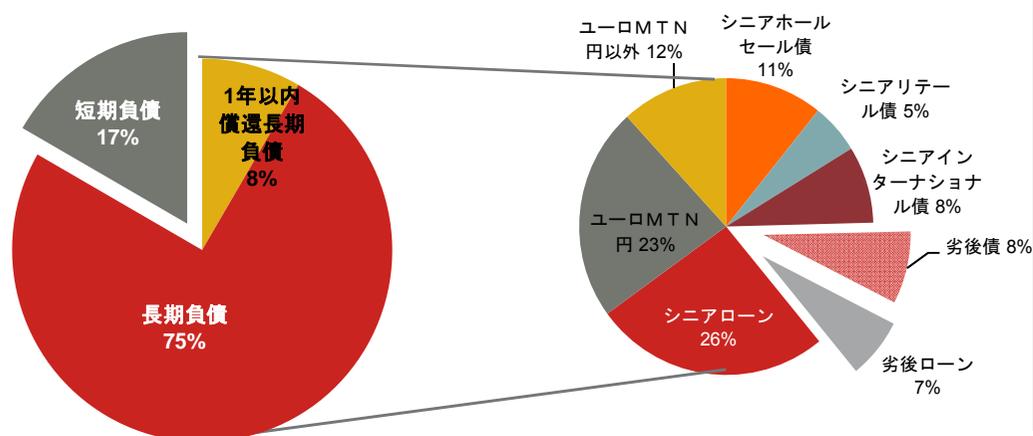


1. 償還スケジュールはストレスシナリオでの早期償還確率を織込む

資金調達(2/2)

- 調達戦略の鍵は投資家層・通貨、ストラクチャー・商品タイプの分散化。現状、国内調達が大半を占めるものの昨年度には米ドル、ユーロ、ポンド建債券を発行するなど各通貨でのカーブを創成。引続きグローバル市場を活用
- 直近では12億5千万米ドルのベンチマーク債を1月に発行
- 無担保債務の75%は長期債務

アンセキュアードファンディング詳細¹



2010年4月～2011年1月に発行した主な債券

	ランク	通貨	金額	日付	期間(年)	クーポン(%)
野村 ホールディングス	Senior	JPY	61bn	Jun-10	5	0.937
	Senior	JPY	47bn	Jun-10	10	1.808
	Senior	JPY	22bn	Jun-10	15	2.329
	Senior	JPY	20bn	Sep-10	5	0.722
	Senior	JPY	16bn	Sep-10	10	1.547
	Senior	JPY	14bn	Sep-10	15	2.107
	Senior	USD	1,250mn	Jan-11	5	4.125
	Sub	JPY	39.5bn	Nov-10	15	2.649
	Sub	JPY	57.7bn	Nov-10	15yNC10	2.749
	Sub	JPY	6bn	Nov-10	15yNC10	6m#L+1.00%
Sub	JPY	50bn	Dec-10	15yNC10	2.773	
Nomura Europe Finance	Senior	USD	392mn	Sep-10	4	2.42
	Senior	AUD	976mn	Sep-10	4	6.3
Nomura Global Funding	Senior	AUD	1,011mn	Jun-10	4	6.55
	Senior	NZD	280mn	Jun-10	4	6.35

1. 流動性管理の観点に基づくもので財務諸表の定義とは異なる。契約期限に基づく。

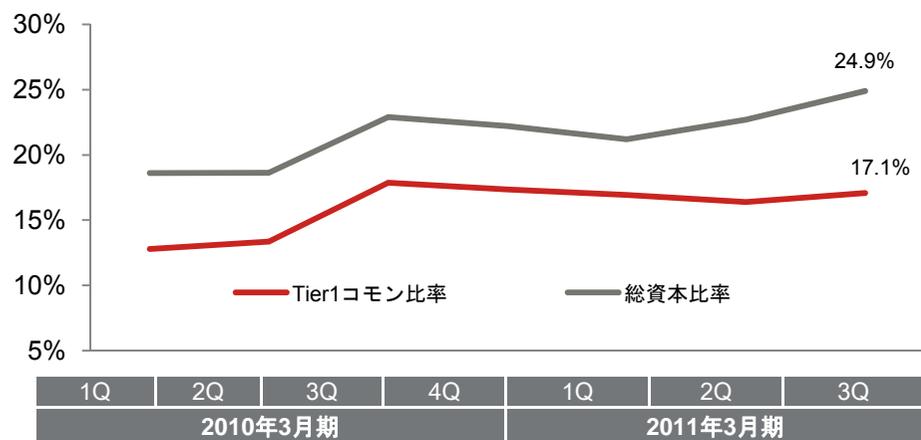
- 1 野村グループ概要
- 2 2011年3月期決算の概要
- 3 資金調達
- 4 資本基盤およびリスク・マネジメント
- 5 Appendix

資本基盤とレバレッジ

- 業界トップクラスの資本水準、2010年12月末のティア1比率17.3%¹、自己資本比率24.9%¹
- ティア1資本は概ね全て普通株、ハイブリッドを含まず
- グロスレバレッジは16.2倍、調整後レバレッジで10.0倍と引続き保守的

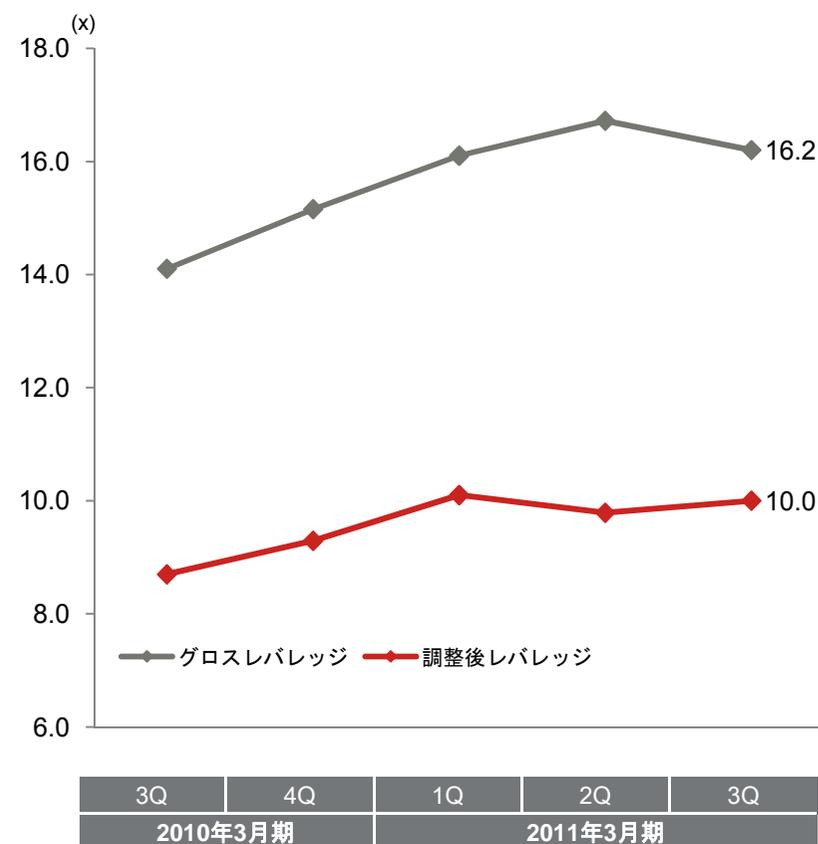
資本基盤¹

(速報値)	(10億円)	
	9月末	12月末
Tier 1	1,942	1,963
Tier 2	497	652
Tier 3	291	267
自己資本合計	2,674	2,826
リスク調整後資産	11,737	11,328
Tier 1 比率	16.5%	17.3%
Tier 1 コモン比率 ²	16.4%	17.1%
自己資本比率	22.7%	24.9%



1. 暫定値
2. Tier 1 コモン: Tier 1 資本からハイブリッド資本および少数株主持分を控除
3. 調整後レバレッジ: 総資産から担保付契約を差し引いた額を株主資本額で除した値。

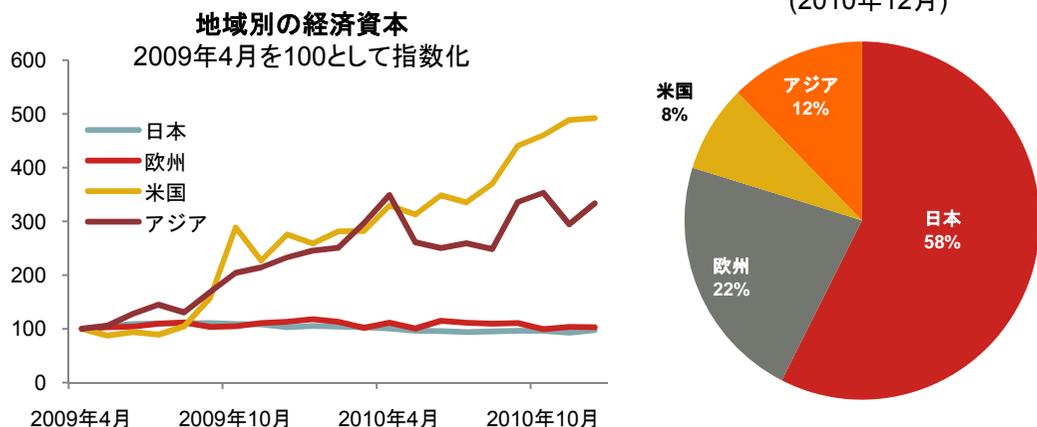
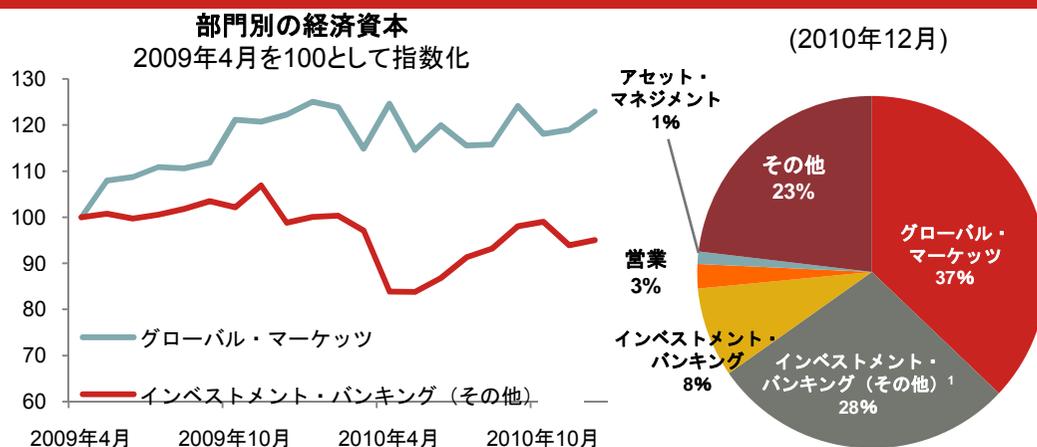
グロス・レバレッジおよび調整レバレッジ^{1,3}



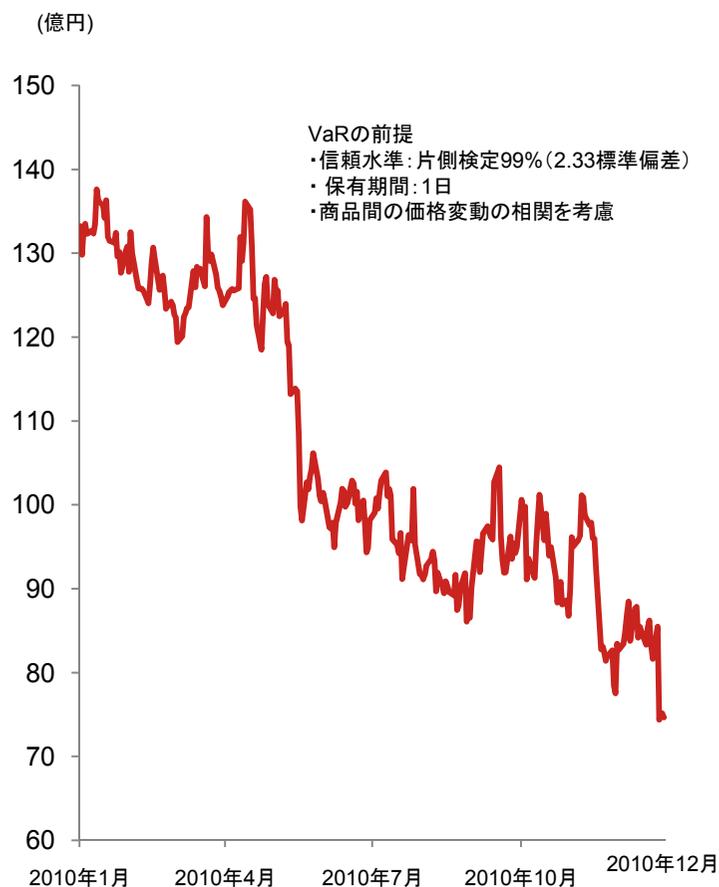
経済資本、リスク管理の状況

- 保守的なリスク管理を継続、一方で顧客ニーズに応じて適切に資本配分
- 第3四半期も欧州でのソブリン問題の再燃、および長期金利上昇にともなう負の影響は限定的
- 経済資本はビジネス戦略・リスク管理戦略にそってグローバルマーケット部門、あるいは米国およびAEJに重点配分

部門別、地域別の経済資本



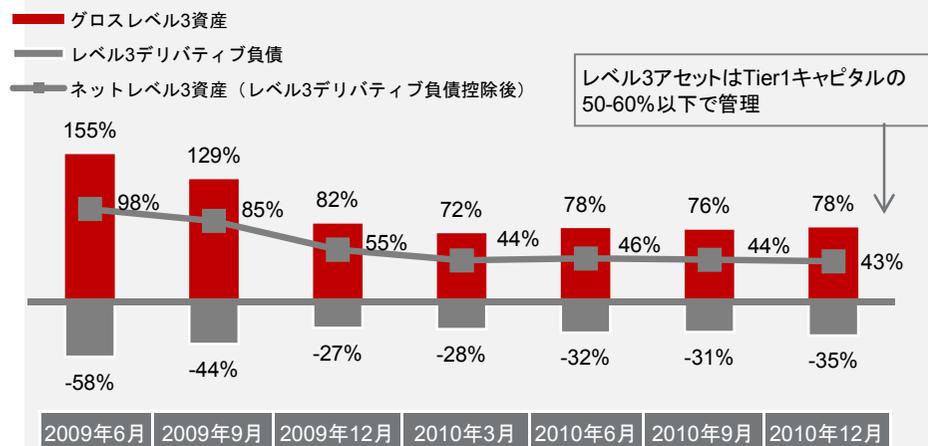
バリュー・アット・リスク (VaR)



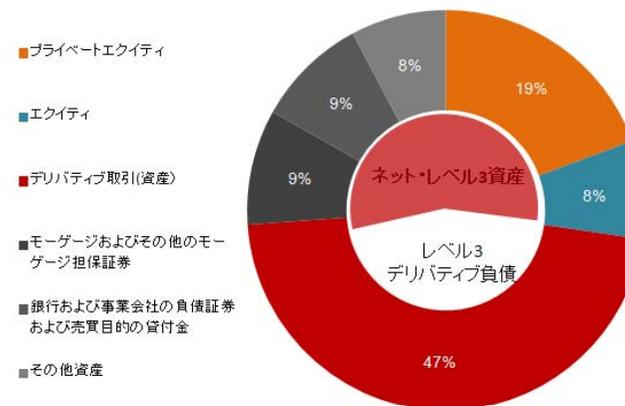
1. インベストメント・バンキング(その他)は、プライベート・エクイティ関連投資を示す

レベル3資産

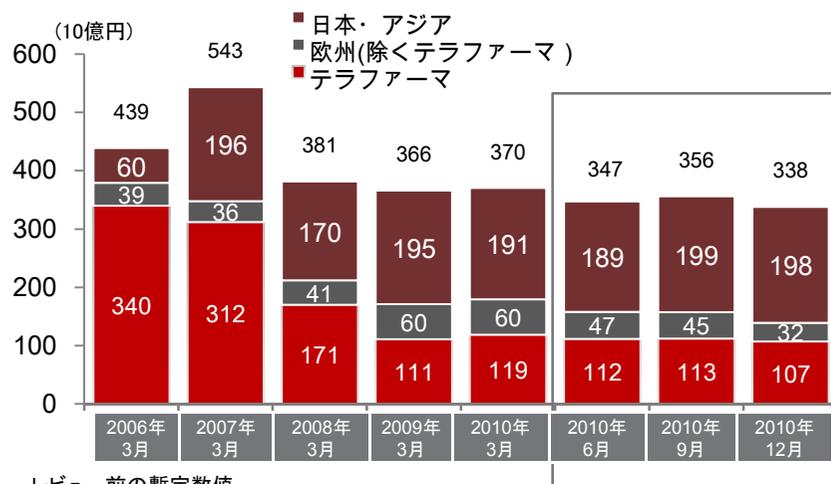
レベル3資産の推移(Tier1資本対比(%))¹



レベル3資産内訳(2010年3月)^{1,2}



プライベート・エクイティ関連投資残高³



コメント

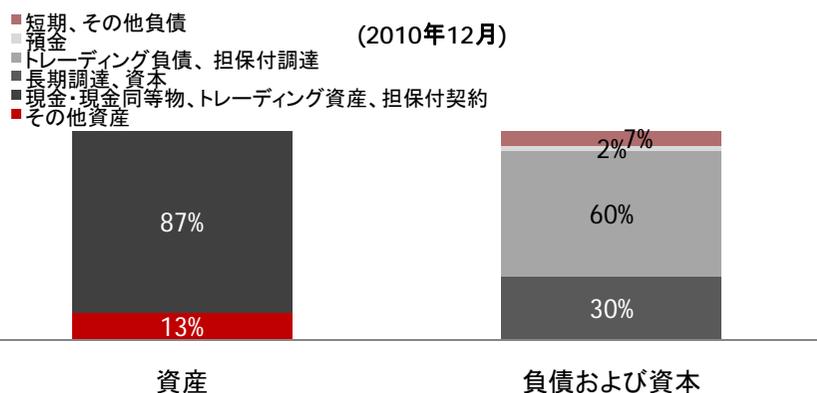
- 2010年12月末のグロスのレベル3資産残高は前四半期から概ね横ばいの約1.5兆円、デリバティブ負債控除後のネットベースでは約0.8兆円
- Tier 1資本対比43%(ネットベース)
- (ネットベースでの)レベル3資産の最大の構成要素であるプライベート・エクイティ投資は引き続き慎重にマネージあるいは秩序だったエグジットを図る

1. レビュー前の暫定数値
 2. グロスベースの数値
 3. 日本の残高は野村プリンシパルファイナンス(NPF)、野村ファイナンシャルパートナーズ(NFP)および野村リサーチ・アンド・アドバイザー(NR&A)の合計
 欧州の残高(テラファーマ除く)はPrivate Equity Group (PEG)およびNomura Phase4 Ventures(NPV)等の合計

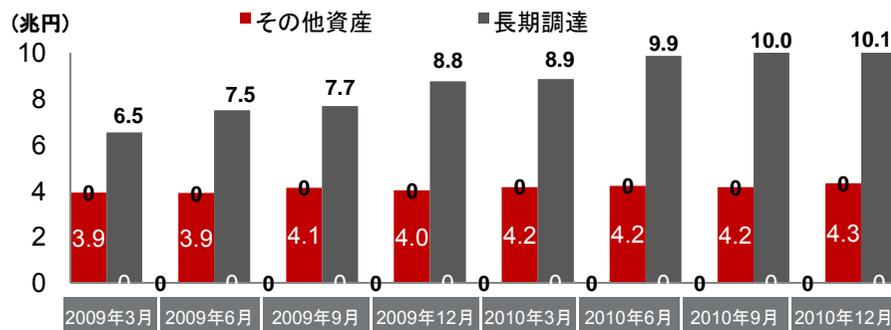
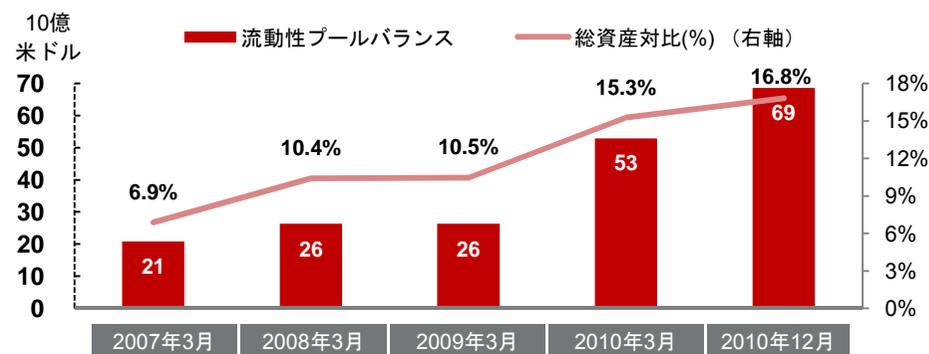
バランスシートおよび流動性管理

- 総資産の約9割は現金および同等物、担保付契約やトレーディング資産など動きの早い資産で構成
- 長期資本(長期負債および資本で構成)は低流動資産(例、投資持分証券、プライベート・エクイティ投資、固定資産等)を十分にカバーする水準
- 流動性プールは約690億米ドル、短期のリファイナンス需要や潜在的なマーケットストレス、信用ストレスに対応

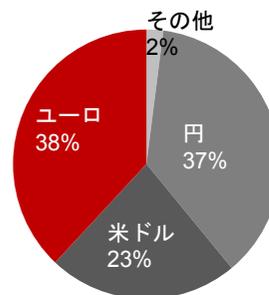
バランスシート¹



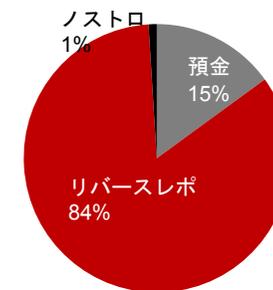
流動性プール残高²



(通貨別)



(商品別)



1. 長期調達は1年以内償還分も含む
2. 流動性プールは流動性管理の観点に基づくもので財務諸表の定義とは異なる。

- 1 野村グループ概要
- 2 2011年3月期決算の概要
- 3 資金調達
- 4 資本基盤およびリスク・マネジメント
- 5 Appendix

グローバル・リーチ

■ グローバルな体制を構築

Americas

- 人員数: 2,275 (3ヶ国):

North America:

- Atlanta
- Boston
- Bermuda
- Chicago
- Los Angeles
- New York
- San Francisco
- Toronto
- Washington, DC

South America:

- Sao Paolo

Europe & Middle East

- 人員数: 4,427 (18ヶ国):

Europe:

- Amsterdam
- Budapest
- Frankfurt
- Geneva
- Istanbul
- London
- Luxembourg
- Madrid
- Milan
- Moscow
- Paris
- Rome
- Stockholm
- Umea
- Vienna
- Warsaw
- Zurich

Middle East:

- Bahrain
- Doha
- Dubai
- Riyadh

Asia-Pacific

- 人員数: 20,513 (12ヶ国):

Asia ex-Japan:

- Bangkok
- Beijing
- Hanoi
- Hong Kong
- Jakarta
- Kuala Lumpur
- Manila
- Melbourne
- Mumbai
- Powai
- Seoul
- Shanghai
- Singapore
- Sydney
- Taipei

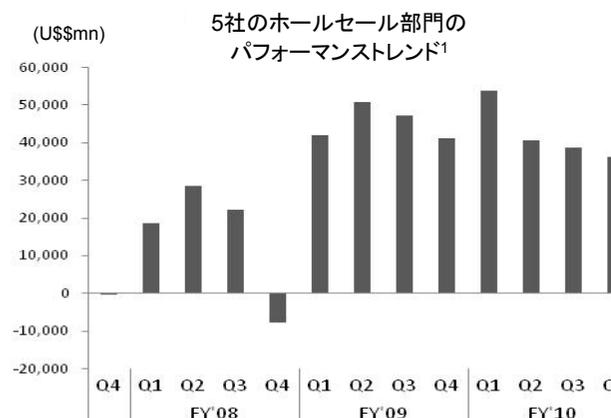
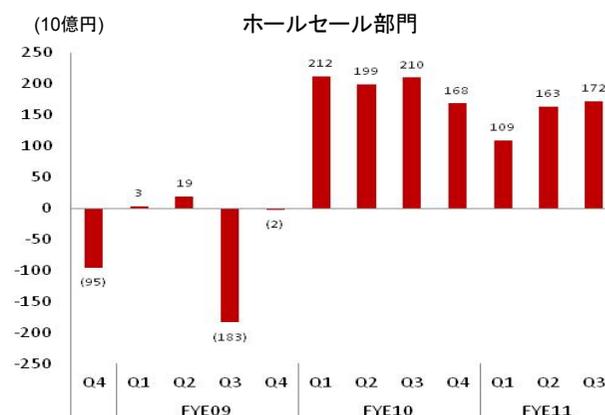
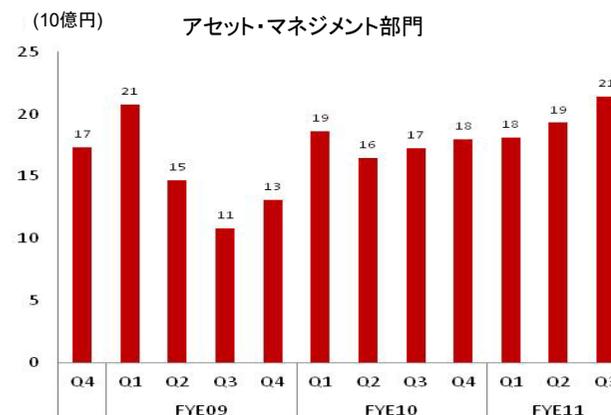
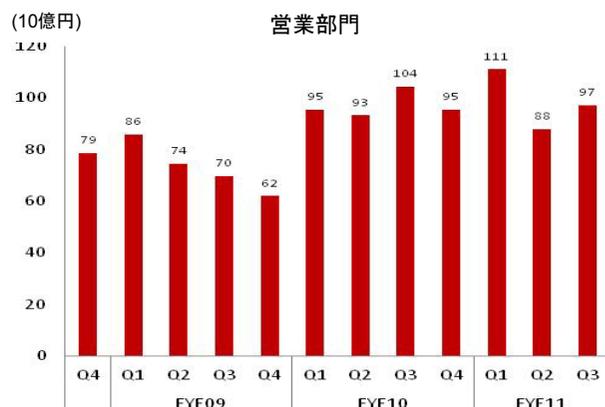
Japan:

- 15,134 employees
- 173 branches countrywide
- Tokyo headquarters

1. 人員数は2010年12月30日現在。
2. 上記はグローバル体制全てを表しているわけではありません。

ビジネス・セグメント 収益トレンド

- 営業部門は、顧客ニーズに的確に応える投資アドバイスや選択肢を提供し続けた結果、毎四半期安定に収益計上
- アセットマネジメントは投資信託市場における持続的成長に伴い、各四半期で増収傾向続く
- ホールセール部門はリーマン統合以来、コンスタントに純収益を確保、それ以前の収益の変動率の高いビジネスモデルから、海外他社と同程度に安定性の高い部門に変容



1. 5社: Goldman Sachs, Morgan Stanley, JPMorgan Chase, Citi Group, Bank of America. 各社のホールセール部門の定義は当社推定。本ページで使用しているデータは及び表現等の欠落・ご誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。
出所: 各社開示資料

バランス・シート関連データ

連結貸借対照表

資産	(単位:百万円)		
	2011年3月期 第3四半期 (2010.12.31)	前期 (2010.3.31)	前期比増減
現金・預金:			
現金および現金同等物	1,043,487	1,020,647	22,840
定期預金	420,531	196,909	223,622
取引所預託金およびその他の顧客分別金	197,953	134,688	63,265
計	1,661,971	1,352,244	309,727
貸付金および受取債権:			
貸付金	1,228,686	1,310,375	-81,689
顧客に対する受取債権	19,416	59,141	-39,725
顧客以外に対する受取債権	749,156	707,623	41,533
貸倒引当金	-5,450	-5,425	-25
計	1,991,808	2,071,714	-79,906
担保付契約:			
売戻条件付買入有価証券	7,191,833	7,073,926	117,907
借入有価証券担保金	5,556,224	5,393,287	162,937
計	12,748,057	12,467,213	280,844
トレーディング資産およびプライベート・エクイティ投資:			
トレーディング資産※	14,755,611	14,374,028	381,583
プライベート・エクイティ投資	297,405	326,254	-28,849
計	15,053,016	14,700,282	352,734
その他の資産:			
建物、土地、器具備品および設備			
(2010年12月31日現在	299,223	百万円、	
2010年 3月31日現在	273,616	百万円の減価償却累計額控除後)	
トレーディング目的以外の負債証券※	556,271	308,814	247,457
投資持分証券※	94,341	122,948	-28,607
関連会社に対する投資および貸付金※	247,176	251,273	-4,097
その他	565,992	598,746	-32,754
計	1,846,055	1,638,975	207,080
資産合計	33,300,907	32,230,428	1,070,479

※担保差入有価証券を含む

*担保差入有価証券を含む

負債および資本	(単位:百万円)		
	2011年3月期 第3四半期 (2010.12.31)	前期 (2010.3.31)	前期比増減
短期借入	1,002,591	1,301,664	-299,073
支払債務および受入預金:			
顧客に対する支払債務	589,706	705,302	-115,596
顧客以外に対する支払債務	315,154	374,522	-59,368
受入銀行預金	745,843	448,595	297,248
計	1,650,703	1,528,419	122,284
担保付調達:			
買戻条件付売却有価証券	9,337,387	8,078,020	1,259,367
貸付有価証券担保金	1,529,125	1,815,981	-286,856
その他の担保付借入	1,056,092	1,322,480	-266,388
計	11,922,604	11,216,481	706,123
トレーディング負債	8,128,267	8,356,806	-228,539
その他の負債	466,490	494,983	-28,493
長期借入	8,052,164	7,199,061	853,103
負債合計	31,222,819	30,097,414	1,125,405
資本			
野村ホールディングス株主資本:			
資本金			
授權株式数 - 6,000,000,000株			
発行済株式数 2010年12月31日現在	3,719,133,241株		
2010年 3月31日現在	3,719,133,241株		
発行済株式数			
(自己株式控 2010年12月31日現在	3,600,380,812株		
2010年 3月31日現在	3,669,044,614株		
資本剰余金	594,493	594,493	0
利益剰余金	642,474	635,828	6,646
利益剰余金	1,071,839	1,074,213	-2,374
累積的その他の包括損益	-149,213	-109,132	-40,081
計	2,159,593	2,195,402	-35,809
自己株式(取得価額)			
自己株式数 - 2010年12月31日現在	118,752,429株		
2010年 3月31日現在	50,088,627株		
野村ホールディングス株主資本合計	-98,107	-68,473	-29,634
	2,061,486	2,126,929	-65,443
非支配持分	16,602	6,085	10,517
資本合計	2,078,088	2,133,014	-54,926
負債および資本合計	33,300,907	32,230,428	1,070,479

連結損益

(単位:10億円)	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2010年3月期		2011年3月期		
	3月期	3月期	3月期	3月期	3月期	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
収益										
委託・投信募集手数料	356.3	337.5	404.7	306.8	395.1	101.0	96.6	118.1	83.5	100.0
投資銀行業務手数料	108.8	99.3	85.1	55.0	121.3	44.5	31.4	20.4	24.9	34.0
アセットマネジメント業務手数料	102.7	146.0	189.7	140.2	132.2	34.2	33.7	34.9	33.7	37.1
トレーディング損益	304.2	290.0	61.7	-128.3	417.4	66.5	81.3	60.0	103.0	104.9
プライベート・エクイティ投資関連損益	12.3	47.6	76.5	-54.8	11.9	2.3	9.7	-0.9	-1.0	-2.4
金融収益	693.8	981.3	796.5	331.4	235.3	67.4	55.9	75.8	70.0	106.9
投資持分証券関連損益	67.7	-20.1	-48.7	-25.5	6.0	-3.8	2.4	-10.3	-5.7	2.1
プライベート・エクイティ投資先企業売上高	88.2	100.1	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	58.8	67.4	28.2	39.9	37.5	9.4	5.2	16.3	12.0	3.4
収益合計	1,792.8	2,049.1	1,593.7	664.5	1,356.8	321.6	316.1	314.0	320.4	386.0
金融費用	647.2	958.0	806.5	351.9	205.9	47.1	38.2	54.2	44.8	90.2
収益合計(金融費用控除後)	1,145.7	1,091.1	787.3	312.6	1,150.8	274.5	277.9	259.8	275.6	295.9
金融費用以外の費用	693.7	772.6	852.2	1,092.9	1,045.6	256.6	249.3	253.4	254.0	268.1
税引前当期純利益(損失)(継続事業)	452.0	318.5	-64.9	-780.3	105.2	18.0	28.6	6.5	21.6	27.8
税引前当期純利益(非継続事業)	99.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
税引前当期純利益(損失)	551.4	318.5	-64.9	-780.3	105.2	18.0	28.6	6.5	21.6	27.8
野村ホールディングス株主に帰属する 当期純利益(損失)(継続事業)	256.6	175.8	-67.8	-708.2	67.8	10.2	18.4	2.3	1.1	13.4
野村ホールディングス株主に帰属する 当期純利益(非継続事業)	47.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-
野村ホールディングス株主に帰属する 当期純利益(損失)	304.3	175.8	-67.8	-708.2	67.8	10.2	18.4	2.3	1.1	13.4

注: 当期の開示様式に合わせて過年度の数値を組み替えて表示しております。

格付

2011年2月2日現在	S&P	Moody's	Rating and Investment Information	Japan Credit Rating Agency
Nomura Holdings, Inc.				
Long-term	BBB+	Baa2	A+	AA-
Short-term	A-2	-	a-1	-
Outlook	Stable	Stable	Stable	Stable
Nomura Securities Co., Ltd.				
Long-term	A-	Baa1	A+	AA-
Short-term	A-2	P-2	a-1	-
Outlook	Stable	Stable	Stable	Stable
The Nomura Trust & Banking Co., Ltd.				
Long-term	A-	-	-	AA-
Short-term	A-2	-	a-1	-
Outlook	Stable	-	-	Stable
Nomura Bank International plc				
Long-term	A-	-	-	AA-
Short-term	A-2	-	-	-
Outlook	Stable	-	-	Stable